

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

3 横川観光ファインプラザ 第3研修室 <令和7年10月28日(木)開催>	
① フレア五日市の有効活用について	
Q	あきる野市が良くなったと思う。これからも若者に移住してもらえたらと思う。 五日市には登山客が多いこともあり、フレア五日市を有効活用し、小さなお土産屋やお店を開くと、収入が市に入ると思う。また、コミュニティバスも増発・増便により利便性が良くなっているの、計画していただいて良かったと思う。
A	夏だけでなく、例えば、市の施設を利用した自然体験学習などに魅力を感じてもらい、継続的に通ってもらうなど、あきる野市を、年間を通して多くの人々に訪れてもらえる場所にしていきたいと考えている。 市では、個人市民税と固定資産税が大きな収入源となっているため、単にお店を増やすだけでなく、住民や働いている人々を減らさないようにするための取組に力を入れている。
② 増戸地区における子どもの増加に対する対応と通学時の安全確保について	
Q	増戸では、今後、住宅地も子どもたちも増えることが見込まれる。一方で、それに対応する環境が整っていないのではないか。増戸小中学校の北側の道路の狭さが気になり、密集地域の道路整備ができないか、市に訴えたこともある。青梅信用金庫から学校の北側を通る防災道路の整備が進むとの話があったが、進展がない。その間に、住宅地が増え、住民が増え、子どもが増えている中、道路の安全が確保されなければならない。子どもが増えることについての対策や、子どもの安全な通学について、市の意見を聞きたい。
A	ご指摘の道路を含め、増戸地区の道路については課題があると認識している。道路の全面的な改善には区画整理が必要で、過去には反対意見もあった。現時点では、できる部分から改善を進めたいと思う。地権者の承諾を得る必要があるなど、課題解決には時間がかかるが、現状を放置するつもりはない。引き続き、地道に、改善に向けて取り組んでいく。
Q	増戸中学校のすぐ下に住んでいるが、その周辺に救急車や消防車が通れないほど狭い道がある。電柱を移動させれば通れると思うため、そうした小さな改善でも相談できる部署があれば、教えていただきたい。また、学校の北側（森ノ下、西伊奈、北伊奈など）から通う子どもたちが通る道も狭い。
A	電柱の移設は可能であるが、そのためには移設先の場所の確保や地権者の相互理解が必要である。建設課で部分的に相談に乗れる。地域に議員の方もいるので、議員の方に相談するという方法もある。 増戸地区の児童数は現在、約500名で、適正規模は18学級である。現状では適正規模に達しており、人数が増えた場合には、学級の増設や特別教室の教室転用、又は学区域の見直しを検討する必要がある。さらに、小学校と中学校の連携を強化し、総合的な学校づくりの案も考えられる。中学校については現在7学級で余裕があるため、生徒が増えても対応可能だと考えているが、場合によっては、学区域の変更も視野に入れる。
③ あきる野市の利便性向上と文化発信、空き家活用について	
Q	羽田空港直行便のバスについて、行きの便を利用したことがあるが、非常に便利で助かっている。帰りの便についても、八王子経由や青梅経由で構わないので、あきる野行きを増便してくれたら、もっと利便性が上がると思う。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

東秋留や草花には40～50年前に定住した人が多く、将来的に空き家が増えると予想される。空き家をうまく活用するシステムの導入が必要である。過疎地に人を呼ぶのも良いと思うが、東秋留や草花などの利便性を生かして人を呼ぶ方法も良いと思う。使い勝手の良い、メリットの多い土地を市場に出していくことが人口を減らさないことにつながるのではと思う。

また、「文化の香りのするまちづくり」のため、過去の先祖が蓄積したアピールポイントを活用してほしい。秋川高校跡地に東京都の埋蔵文化財センターを誘致し、あきる野市を東京西部の文化発信拠点にしてほしい。

A 市内の団地については、ご指摘の地域も含め、世代がまとまっている地域がある。一斉に高齢化して空き家になる可能性もあるため、対策が重要である。空き家に関しては、家主の理解・協力を得るのが難しいという状況がある。市としては、家主の方々に対して、空き家の管理に関する相談に乗ったり、必要な情報を提供したりして、空き家の活用につなげる努力をしている。また、地域主導で空き家情報の発信を行っているところもある。このような地道な活動を続けていきたい。

「文化の香りのするまちづくり」は心の豊かさにつながると思うので、何らかの形でやっていきたいと思う。

④ 排水処理とクマ被害について

Q 1つは、区画整理を行うにつれてアスファルトが多くなるため地下プールのような排水施設を設けて、集中豪雨の対策をしてほしい。例えば、3つのプール（砂利のプール、受水槽、自然の吸い込み）が洪水災害防止につながるのではないか。以前、台風の時に山田地区で冠水事例があったが、広大な土地の活用を検討してほしい。

もう1つ、クマが日の出町で多いらしいが、私の家の近くでもクマの被害があったそうである。里山的なところの安全策について考えてほしい。

A 雨水処理については、規模の大きい話でもあるので、持ち帰って検討する。

市では、クマは、人家近くで見られるようになってきたことが問題になっている。対策については、庭に食糧になるような植物（柿など）があったら処理するようお願いをしているほか、出没した際には、迅速に警察と対応を行っている。来年もクマの出没が続くかもしれないが、地域の皆さんには注意をしてもらいつつ、市としても、山の手入れの状況について改善していきたいと思う。

⑤ 子ども育成における地域の協力体制について

Q 子ども育成リーダーとして活動している。子どもを大切に育て合おうとする人が多い一方で、仕事と地域活動の両立が難しいことや、有償で取り組む人や専門知識を持つ人が少ないことなどから、市民（ボランティア）だけで活動するには限界があると感じる。専門的な方と、地域の市民が一緒に取り組む体制を整えることを、ぜひ検討してほしい。増戸やあきる野に生まれて良かったと思えるまちづくりのために、子どもたちのための取組に対し、人材や予算をもっと投入してほしい。

A 見守り活動も大勢の方々に熱心に参加いただき感謝している。理想の「あきる野っ子」が育っている。市では、各校において、学校運営協議会を立ち上げ、学校長の経営方針に承認してもらって学校運営を進めている。同協議会の中で、地域の方々からいただいた意見を生かし

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

ながら、学校運営を進めていきたい。

教育委員会としては今後、都にも協力を要請しながら、様々な場面で活動できるような相談員の養成にも取り組んでいく。地域一体の雰囲気各市全体に広げていきたい。

⑥ 遊びの機会の充実と魅力的なまちづくりについて

Q 「あきる野市の自慢」について話したい。子どもたちに生の舞台を見せる機会を設けている自治体は、このあたりでは、S&D秋川キララホールがあるあきる野市だけである。教育は遊びを基盤に積み重ねられるべきであり、遊びや感動が心の栄養となる。そしてその機会があきる野市にはある。このことが、あきる野市の素晴らしいところだと思う。五日市町との合併前から続く地域活動も良い点で、今後も市として支援してほしいと考えている。住民を減らさないために、魅力的なまちづくりと子どもへの投資をもっと考えてほしい。

A あきる野市はIターンで戻ってくる人より、自身の思い出や子育てのしやすさを理由にあきる野市にUターンで戻ってくる人が多いと感じている。川遊びなどの自然環境も魅力的で、こうした要素を活かしてUターンを促進していきたいと考えている。

⑦ 高齢化社会での安心できるまちづくりについて

Q 近所で高齢者が多くなった。先日、一人暮らしの高齢者の方が自宅で倒れたらしいという情報を聞きつけ、近所の者たちで助けようと試みたが、プライバシーの問題もあり、家に入って助けることができず、警察に通報することとなった。高齢のために倒れる人やけがをする人もいる中、将来的にどう関わっていくべきかわからず不安である。高齢化の中で安心できるまちづくりをするに当たって、こうした事態も起きていることを承知しておいてほしい。

A 難しい問題ではあるが、地域のつながりを大切にする活動を地道にやっていきたいと思う。増戸地区は住民同士の絆が強く、防災や子どもの見守り活動を一生懸命やっていた地域である。ぜひ、続けてほしいと思っている。

⑧ 前田公園の説明看板の状態について

Q あきる野市立東部図書館エルの南側に位置する、前田公園の説明看板がボコボコで直っていない。他自治体から来られた方に恥ずかしくて見せることができない。ぜひ直してほしい。

A 十分に気をつけたい。今後もそのような情報共有をしてほしい。